

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 28, No. 1 神奈川県立生命の星・地球博物館 Mar. 2022



よこあなほ 横穴墓に広がる貝化石 ベニグリ *Glycymeris rotunda* の密集層

神奈川県中郡二宮町中里
2022年1月 田口公則 撮影

たぐち きみのり
田口 公則(学芸員)

大磯丘陵には、古墳時代後期(7世紀前後)に造られた横穴墓が多数分布しています。鶴巻田横穴墓群もその一つで、丘陵斜面の地層に掘られた遺跡です。

鶴巻田横穴墓の見どころの一つが内部の壁や天井に広がる貝化石です。この地層は二宮層下部の泥岩層(約60万年前)で、貝などの化石を豊富に含みます。この横穴墓では、横穴がちょうど貝化石の密集層をくりぬいたために、貝殻が天井や壁一面に広がったのです。

化石の多くは、水深30～300 mの砂泥

底に生息する二枚貝ベニグリで、1枚になった片殻だけのものと、2枚の殻がそろった合弁のものがあります。合弁個体が多数を占めることから、貝殻は遠くから流されてきたのではなく生息場付近でたまったものと考えています。

古墳時代の人たちもなぜ丘陵に海の貝があるのか不思議に思ったことでしょう。海の地層が陸に見られる理由は、大地の隆起活動にあります。貝化石以外にも「隆起」が生んだ大磯丘陵には、かつて海だった証拠が数多く見つかっています。